

わたしたちの身のまわりの自

世界や日本で様々な環境の変化が起きていること、それに対し、SDGsやパリ協定という、世界全体の約束事が決められ、それらに向けてみんなが行動していることが分かりました。では、わたしたちの身のまわりの自然では何が起きているのでしょうか。

森の手入れが進まない

スギやヒノキなどの人工林は、定期的に間引きや伐採をしないと荒れてしまいますが、林業の不振で担い手が減り、管理が十分に行われない人工林が増えていきます。そのような人工林は、貯水機能が低下して土砂くずれが起こりやすくなり、生態系のバランスもくずれてしまいます。



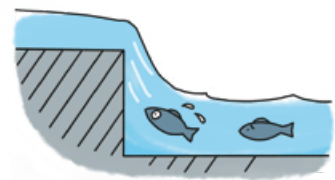
田畑や町にシカやイノシシが出てきて困っている

農作物が作られなくなった田畑はやぶになっていき、シカやイノシシにとって、食事をしたり隠れたりしやすい場所になります。こういった場所が増え、シカやイノシシが田畑を荒らしたり、山から町に下りて来たりするため、わたしたちの暮らしがおびやかされています。



魚がすみにくい川になっている

災害防止のためにダムや堰がつくられ、護岸もコンクリート化されました。川と海を行き来する魚にとって、すみにくくなってしまいました。最近では、これらの魚の通り道を確保したものもありますが、以前よりすみにくくなっていることは間違いありません。



外来種が増えている

人が持ちこんだ外来種が、地域に元からいた生物を食べたり、すむ場所や食べ物をうばったりすることで、地域の生態系がおびやかされています。

